日本組織培養学会
昭和59年3月1日発行

会員通信
第52号

発行責任者
三井洋司・山本清高（老人研）
菅　幹雄（東北大・抗研）
井出利憲（広島大・医）
東京都板橋区栄町35-2（〒173）
東京都老人総合研究所
電話 03-964-1131

§　会長・幹事選挙の結果について

昭和59年〜62年度会長，59・60年度幹事選挙は昨年12月20日締切られ，川崎医大にて木本哲夫会員の立合いのもと，開票の結果，下記のように決定しました（敬称略）。

会長	当選	佐藤　二郎	50票
	次点	山根　績	34〃
幹事（40才以上）			
	当選	髙木良三郎	45票
	〃	奥村　秀夫	40〃
	〃	松村外志張	33〃
	〃	沖垣　達	28〃
	次点	髙岡　聰子	27〃
幹事（40才以下）			
	当選	鈴木　文男	45票
	〃	花岡　文雄	36〃
	〃	西　義介	28〃
	〃	常盤　孝義	18〃
	次点	間中　研一	16〃

なお投票者総数は159名でした。

（会長・幹事選挙管理委員長　難波正義）

§　研究会年一回案に関する郵便投票結果について

昨年末，新会長・幹事選挙と同時に，第56回研究会の際の臨時総会において決議された研究会年一回案に関する幹事会提案（下記）の郵便投票が行われました。結果は

賛　成	128
反　対	30
白　票	1
総投票数	159

でした。従って，大多数の会員は，現行の研究会年2回を，年1回の大会とする案に賛成であり，この結果をふまえて，次回総会において会則変更の手続をとりたいと思います。

（幹事会提案）『現行の年２回の研究会を，年１回の大会とする。但し，現在までの本学会の特徴を生かし，研究成果発表時間，討論時間は充分に確保する。発表に際しては培養技術を重視する。従って，現行の会則第３条第２項，第12条，第15条をそれぞれ以下のように変更する。

第３条第２項　年１回大会を開催し学術上の研究成果の発表および知見の交換を行う。

第12条　幹事会は大会を開催地および世話役を決定し委嘱する。

第15条　大会に要する経費は，別にこれを徴収することができる。』

（庶務幹事　大野忠夫）

§　日本組織培養学会第57回研究会の御案内

第57回研究会は，初めて四国で開催されることになりました。出来るだけ多数の方に参加して頂くため，シンポジウムは一つに致しました。なお，ポスターセッションを行うかどうかは演題の集りぐあいによって決めさせていただきます。

1. 会　場：高知放送会館（高知市本町）

高知駅から
- 市電車　『はりまや橋』で乗換え（5分），西行き『本町（ほんまち）』下車（5分），すぐ前
- タクシー　7分

高知空港から
- タクシー　30分
- 空港バス　『はりまや橋』下車（30分），電車西行き『本町（ほんまち）』下車（5分），すぐ前

2. 会　期：昭和59年5月25日（金），26日（土）
3. 世話人：喜多村　勇

高知医科大学小児科

〒781-51　南国市岡豊（おこう）町小蓮（こはす）

Tel. 0888-66-5811　内2690

4. プログラム：

シンポジウム　　司会　藤本重義

「細胞工学的アプローチの現況と展望」

内田　昌堯　（大阪大学細胞工学センター）

矢原　一郎　（東京都臨床医学総合研究所）

渡辺　　武　（佐賀医科大学）

谷田　　克　（千葉大学医学部）

招待講演

"Application of tissue culture methods in clinical investigation".

Pearay L. Ogra,　Professor of Pediatrics and Microbiology

Director, Division of Infectious Diseases

STATE UNIVERSITY OF NEW YORK

5. 演題申し込み：昭和59年3月15日

申し込みをされた方々は，「組織培養研究」（抄録）掲載のための講演要旨用用紙をお送り致します。（〆切　3月末日）

6. 参加費：2,000円

7. 懇親会：高知会館（会場から歩いて3分）

5月25日　午後6時（会費4,000円）

8. 宿　泊：日本旅行（高知駅旅行センター）がお世話します。（Tel. 0888-82-4167）

§　第3回国際細胞培養会議のお知らせ

既に会員通信でお知らせしておりますように，下記要領にて第3回国際細胞培養会議（3 rd International Cell Culture Congress, 3 rd ICCC）が開催される予定です。現在鋭意準備中ですが改めてご案内いたします。

名　称　第3回国際細胞培養会議（3 rd ICCC）

主　催　第3回国際細胞培養会議組織委員会

共　催　日本組織培養学会

会　長　山根　績（東北大学，抗酸菌病研究所細胞生物学部門）

事務局　東北大学抗酸菌病研究所細胞生物学部門内，松谷　豊

〒980　仙台市星陵町4－1

Tel. 0222-74-1111（内）3461～4

期　間　1985年（昭和60年）9月10日（火）～13日（金）

場　所　仙台市民会館

内　容　シンポジウム：「培養細胞の分化機能」

詳細は前回の会員通信をご参照下さい。

一般演題：ポスターセッション

Second Circular は今年（1984年）9月頃発行の予定です。ご質問，お問い合わせは事務局あてにお願いいたします。

（山根　績，菅　幹雄）

§　第3回国際細胞生物学会議へのお誘い

日本組織培養学会に積極的な後援を頂いている上記国際学会が，本年8月26日～31日の間，東京新宿の京王プラザホテルおよび隣接のNSビルで開催されます。Program 作成は，阪大岡田善雄教授を中心に進展し，55の symposium と workshop が計画されています。内容は Genome, Membrane, Organelles, Cytoskeleton, Cell Sociology, Cell Pathology and Aging, Technologyにまたがり，一般演題（Poster）もこれと平行して行われます。

申すまでもなく，細胞生物学は近代の生命科学の中核的存在であり，幅広い支持と注目を集めている分野となっていますので，この会議には既に65ヶ国からの参加問合せが寄せられております。

過去の歴史から見ても，1976年のBosto会議には4,300人，1980年のBerlin会議には3,500人以上が討論に加っています。本会議にも多数の外国人参加者が予想され，これにこたえる為には，国内からのより多い参加が望まれます。

特にもっとも関係の深い日本組織培養学会員の積極的な参加を希望してやみません。なお，Poster発表の締切りは4月15日です。必要書類ご入用の方は下記までご連絡下さい。

〒701-02　岡山市山田2117
第3回国際細胞生物学会議
事務局長　沖　垣　達
Tel. 0862-82-6332（直通）

§「細胞成長因子」刊行のお知らせ

かねてより編集しておりました本学会編「細胞成長因子」が4月中旬には刊行される予定となりました。前回の「組織培養の技術」のときと同様，本学会員には特別価格でお頒けいたします。注文書は別途お送りいたしますので，皆様ご活用下さいますようお願いします。なお，内容概略目次は以下のとおりです。

1. 細胞成長因子研究の現状と展望
2. ペプチド性細胞成長因子（EGFなど36項目）
3. 細胞増殖に関与するホルモン（インシュリンなど13項目）
4. プロテアーゼ（トロンビンなど6項目）
5. 担体（トランスフェリンなど5項目）
6. 栄養物質（アミノ酸など7項目）
7. マトリックス物質（ファイブロネクチンなど8項目）
8. 細胞増殖関連物質（ポリアミンなど10項目）
9. 生物材料（血清など2項目）
10. 細胞増殖阻害物質（ケイロンなど3項目）
11. 代表的実験例－EGFを用いて－
12. 付表（無血清培地の組成など）

教育研究システム委員会
（「細胞成長因子」編集委員会）

§ アメリカTCA reportから

アメリカ組織培養学会の第35回年会が，6月3日から7日まで，Texas のHouston で開催されます。2月発行のTCA report に，Abstract Form と登録方法の情報が同封されますので，参加希望者はご留意下さい。なお，会期中，米国，欧州，日本の組織培養学会共催によるRound Table が行われます。タイトルはSerum−Free Cell Cultures で，Convener は，R. G. Ham, M. Adolphe 及び I. Yamane です。

また，TCAの重要会員でNominating Committee の委員長であるDr. V. J. Cristofalo が，アメリカ老年学会の1983年Brookdale賞の栄誉を受けたことがその業績とともに詳しく報じられています。彼は，human diploid fibroblast の in vitro 系における cellular aging，特に hydrocortisoneによる分裂加齢の延長機序を解析していた。

（三井洋司）

§ 編集後記

本号は，役員改選や規約改正の結果，及び研究会案内など重要記事が載っていますのでお見逃がしのないように。さて，今度，会長・幹事の総入れ替えとなり，編集幹事も交代いたします。さすがに，ほっとしているところです。必須の情報を，もれなく，正確に，期日にまにあわせて伝達する為には，自分個人の実験などは少々犠牲にして原稿を集めるなど，気を使うこともあります。他の編集委員，ことに，身近かで助けていただいた山本会員の労に感謝したい。同様，いやそれ以上に，雑用，気苦労をなされ，大任を務められた会長をはじめ，他の幹事諸氏も大変ご苦労様でした。五月の新旧合同幹事会，総会等での正式引き継ぎをもって，新体制の発足となるのでしょうが，研究会その他重要事項の円滑な運営の為には，新旧協力し合った活動がもう始まっていて良いと思われます。

任務の引き継ぎにあたって編集幹事の行ってきた務めを記録にとどめて，次期編集幹事及び会員諸氏の参考に付し，ご協力をお願いしたい。

① 「会員通信」の発行，……特に研究会案内は，開催時期，印刷，郵送を考え合わせ，絶対に遅れないよう世話人と協議する。

② 「組織培養研究」の統一性維持と一部編集，とくに，short communication など研究会発表要旨以外の原稿について，採否（review）の arrange と編集に責任を負う。

③ アメリカ及びヨーロッパ組織培養学会に，会員通信の英訳要旨を郵送する。逆に，これら学会からのTCA レポートを受理し，会員に必要記事をしらせる。　　以　上

最後に，二年余の編集を通じて，原稿執筆などのお世話になった方々に御礼申し上げると共に，新しい編集幹事を中心とした活動に，会員皆様のご協力をお願いする次第です。

（三井洋司）

§ 住所等の変更

氏　名	新所属機関・同住所地			備考
井上　達	横浜市立大学医学部病理部	232	横浜市南区浦舟町 2-33 横浜(045)231-2081 内線 245	p. 5
○田中　義夫	農林水産省家畜衛生試験場 製剤研究部 ウイルス製剤研究室	305	茨城県筑波郡谷田部町観音台 3-1-1 筑波谷田部(02975)6-7859	p.27
常盤　孝義	岡山大学医学部癌源研究施設 病理部	700	岡山市鹿田町 2-5-1 岡山(0862)23-7151 内線 2614	p.29
○徳井　忠史	農林水産省家畜衛生試験場	187	小平市上水本町 1500 小平(0423)21-1441	p.29
吉田　昭彦	ゼリア新薬工業㈱ 中央研究所	360-01	埼玉県大里郡江南村大字押切 字沼上 2512-1 (0485)36-3456	p.50

§ 住所等の変更

〔賛助会員〕

社　名	住　所		備考
アミコン株式会社	102	東京都千代田区麹町 1-7 東京(03)264-2491 (加藤好雄)	p.57
三光純薬株式会社		担当者のみ変更(学術課　山本桂己)	p.58
太陽酸素株式会社	556	大阪市浪速区元町 2-1-1 大阪(06)647-1871 (低温課　宮本清一)	p.58
株式会社東海医理科		ビル名のみクリハラビルに訂正	
社団法人 日本化学物質安全・情報センター	105	東京都港区虎ノ門1-13-4 東京(03)434-8891 宝寿会館ビル 4 F　(調査部長　大島輝夫)	p.60
日本フロウラボラトリーズ㈱	102	東京都千代田区飯田橋 4-7-10 東京(03)237-0844 飯田橋セントラルビル 8 F　(代表者　髙額譲治)	p. 60
富士レビオ株式会社		社名のみ変更，旧富士臓器製薬㈱より	p.60
山之内製薬㈱生物科学研究所	174	東京都板橋区小豆沢 1-1-8 東京(03)960-5111 (細胞生理研究部　小原　侃)	p. 61